

株式会社 中村屋

東証プライム
2204



2022年3月期決算説明

2022年6月

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. サステナビリティへの取り組み
4. 2022年3月期決算概要
5. 2023年3月期通期見通し

120年以上の歴史をもつ、レストランも展開する食品会社

会社名	株式会社中村屋
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目26番13号
創業年月日	1901年12月30日（創業121年）
代表取締役社長	鈴木 達也
資本金	74億6,940万円（2022年3月末現在）
業績	売上高：330億円（2022年3月期実績）
証券コード・上場取引所	2204：東証プライム
従業員数	753名（2022年3月末現在）
主な事業内容	和洋菓子、パン、食品の製造・販売、レストラン経営
主な事業所	東京事業所、神奈川工場、埼玉工場、つくば工場、武蔵工場 等

『真の価値を追求し、その喜びを分かち合う』

創業者の信念(独立自尊、良品廉価)を受け継ぐ

■ ミッション

お客様に対して

独自性を磨き、どこよりもおいしい商品を提供することで、感動と笑顔をお届けする

従業員に対して

ひとりひとりが覚悟と熱意をもって仕事に挑戦し、成長することで働く喜びが生まれる風土をつくる

社会に対して

持続可能な社会の実現に貢献し、ステークホルダーとの信頼を築く

■ ビジョン

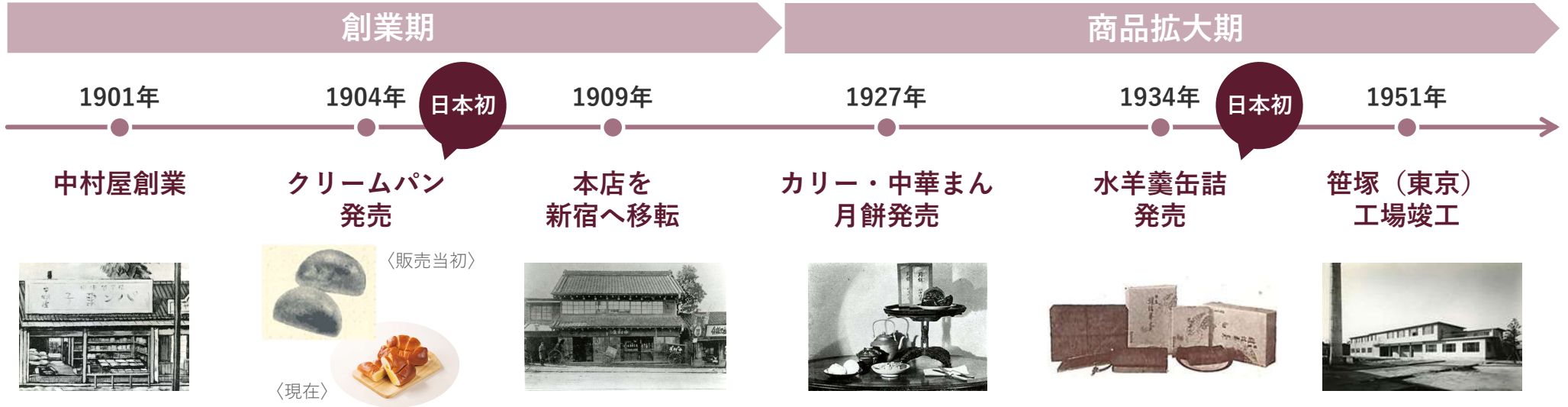
中村屋は、創意工夫と挑戦で、
これからの暮らしに溶け込む、喜んでもらえる食を提案する

■ 中村屋の約束 (ブランドステートメント)

新宿中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。



特徴・強み

新宿 **中村屋**

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

なぜ120年以上、存続し続けてこられたか？



創業者 **相馬愛蔵・黒光** 夫妻

自分たちだけでできる商売を始めたいが、経験はなく素人

東京・本郷に**パン屋**を開業

「**素材にこだわり、とにかくおいしいものを提供したい**」

「**適正な価格で提供したい**」

社会奉仕の精神で経営

DNA 独創性の発揮

くらしの変化やお客様のニーズを察知して新しい商品を生み出す
創意工夫と挑戦でつねに商品を磨き上げる

お客様からの信頼

高品質な商品の提供

|| 創意と工夫をもって商品を提供

大命題

中村屋らしさ = お客様の期待を裏切らないこと

「おいしくて定番になるもの」を追求

顧客ニーズにあわせて提供価値を差別化

主な例 中華まん



本格志向の方に

ほどよい弾力のある生地と厳選素材を使用した中村屋最高峰の「天成まん」

自宅や職場で手軽に

幅広い世代に食べやすいよう、ふんわりした生地と味付け
自宅やオフィス等で、電子レンジで簡単・手軽に加熱

暖かいものをすぐに

加湿に適した品質、大手コンビニエンスストア様と共同で開発

おいしさを求めて時代やニーズにあわせて変えていく

流通大手（取引先）からの信頼も厚く、新商品導入に協力的

特徴・強み②：品質へのこだわり

┆ レストランで培った調理技術を活かした商品開発

┆ 原材料から厳選

	当社	一般メーカー（例）
調理 開発技術	レストランで培った 調理技術をもとに開発	科学的な数値による配合
原材料	こだわりのあるもの 原材料から作りこむ	オーソドックスなもの 原材料を組み合わせる

主な例 **レトルト食品**

料理人ならではの視点や経験を基に**独自開発**による配合

主な例 **中華まん**

皮：**自社酵母による発酵**（特徴的な香り、弾力を生む）
小麦粉・配合はオリジナル

中身：調理や菓子作りのノウハウの活用

┆ セグメントは菓子事業・食品事業・不動産賃貸事業

┆ 主力商品は中華まん和レトルト食品

不動産賃貸事業

1.5%

- ・商業ビル「新宿中村屋ビル」保有テナント貸

食品事業

25.3%

- ・市販食品
「レトルトカレー類」
「調理用ソース類」等
- ・業務用食品
ファストフードチェーン向け
「カレーソース類」
「スープ類」等
- ・直営レストラン
「マンナ」
「グランナ」
「オリーブハウス」等

菓子事業

73.2%

- ・中華まん類※
- ・贈答用菓子類
- ・自家用菓子類

2022年3月期
実績

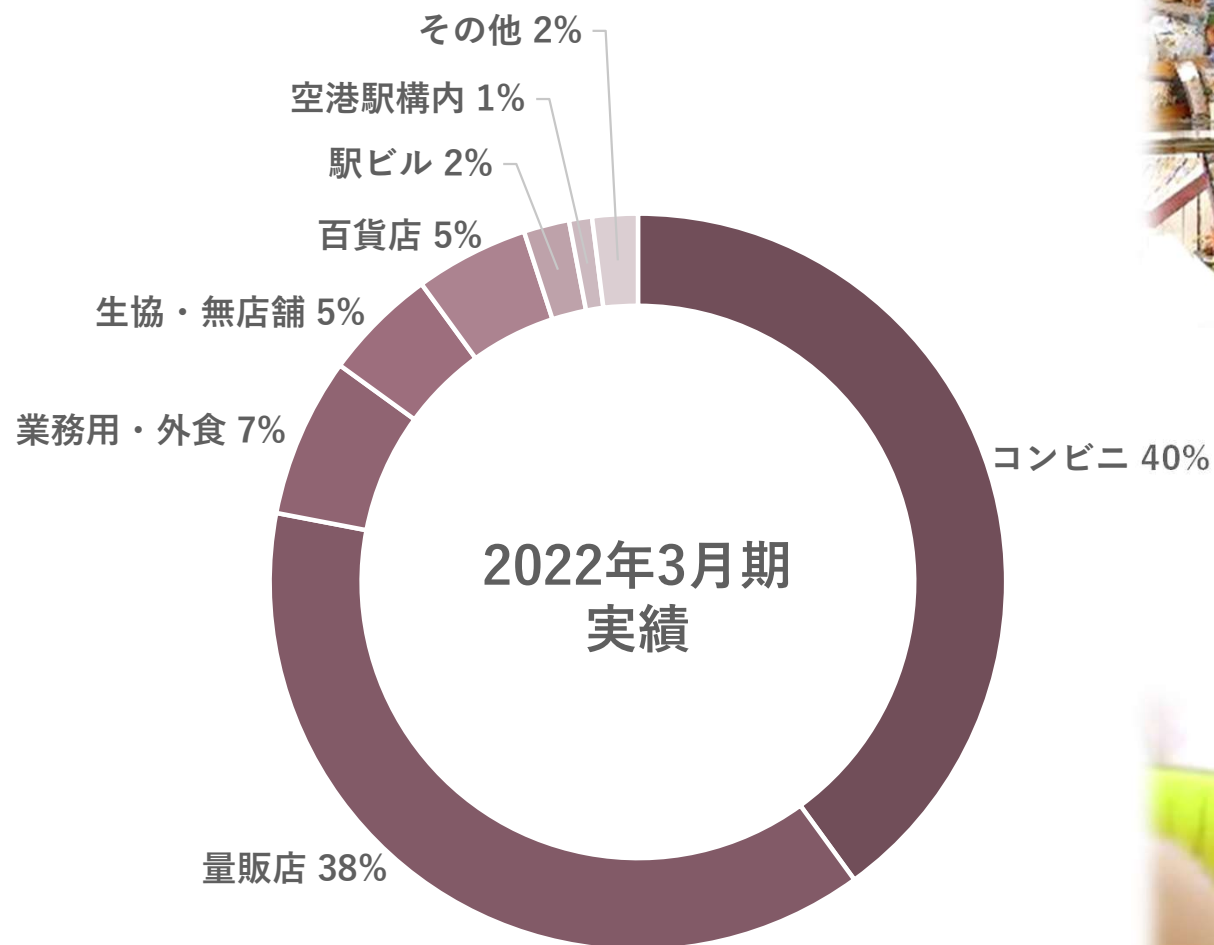
※中華まんは菓子事業に分類
中村屋の菓子の店舗で販売していたため

中華まん、菓子、カレー、中華、洋食まで幅広く取扱い

<p>中華まん</p>	<p>天成饅</p> 	<p>量販店向け</p> 	<p>コンビニエンスストア向け</p> 		
<p>菓子</p>	<p>焼き菓子</p> 	<p>米菓</p> 	<p>羊羹・餡製品</p> 	<p>水羊羹・ゼリー</p> 	<p>〈ショップブランド〉 キャラメルマンデー</p> 
<p>食品</p>	<p>インドカレー</p> 	<p>中華</p> 	<p>洋食</p> 	<p>調理用</p> 	

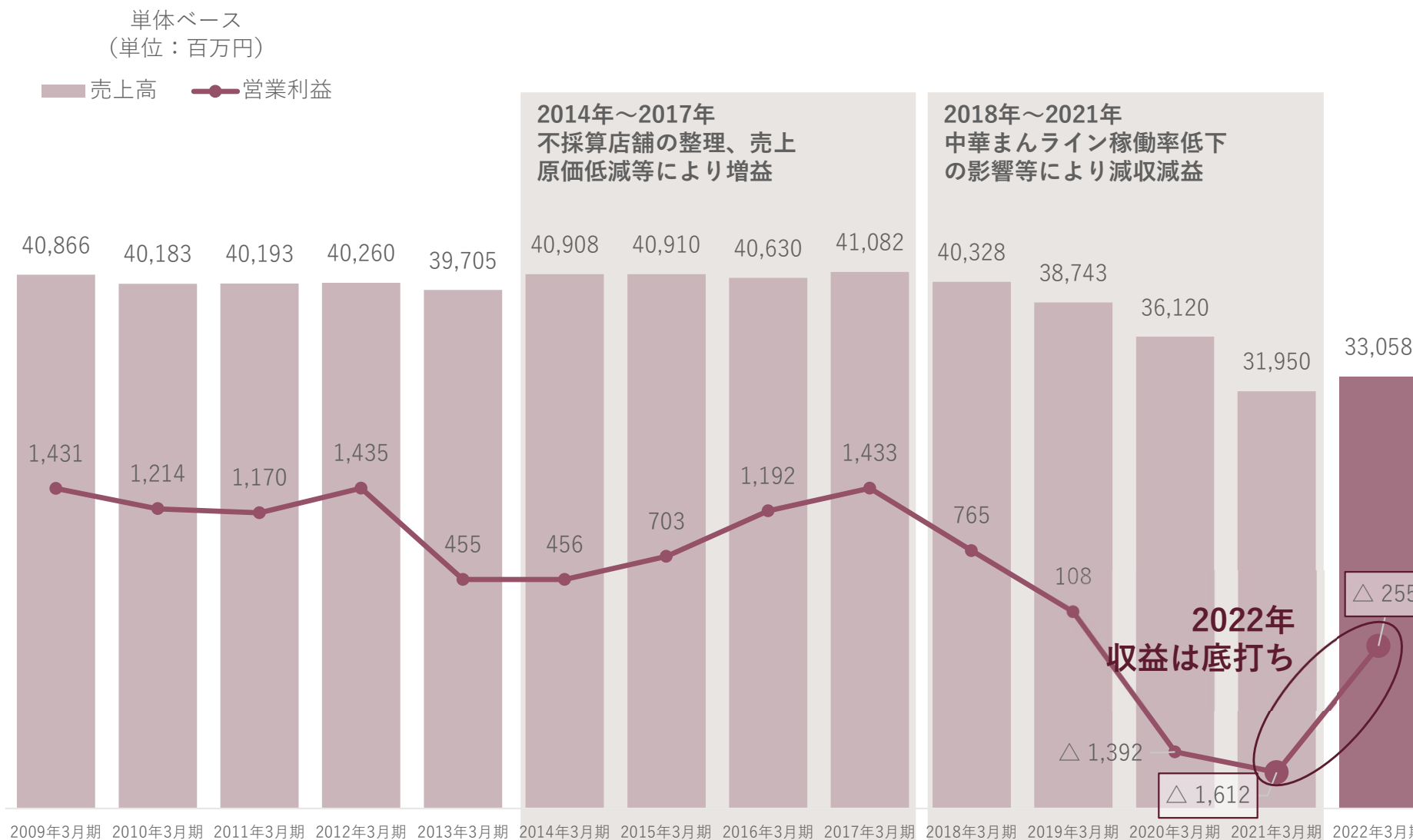
主な販路

- 日本の小売流通業界の変遷とともに、商品を開発・提供して拡大
- 店頭のお客様を大切にすることで、流通とともに成長



過去の業績動向

- 売上高はほぼ横ばいも、事業改革で一時的に売上高が減少
- 営業利益はコロナ禍の影響もあり赤字に転落も、事業改革が奏功し、底打ちへ



┆ 【食】への集中

┆ 生産機能の再編

テーマ	経営の合理化	保有資産活用による投資
実施事項	<ul style="list-style-type: none">• スポーツクラブ事業撤退• 営業拠点の集約• 直営店（菓子・レストラン）の戦略的閉鎖	<ul style="list-style-type: none">• 保有ビルの売却と遊休資産の整理• 武蔵工場の竣工
狙い・成果	損益分岐点売上高の引き下げ リスク回避	インフラ整備 生産能力の向上
期待 できること	赤字部門の整理により収益は黒字化へ 本業の食品・菓子への経営資源の集中による効率化	

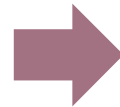
- 企業基盤・体質の強化
- 売上高回復に向けての施策

事業の選択と集中

実施済

経営合理化

保有資産の活用



成長ビジネスへの投資

- 中華まんとその技術を活用した商品および食品事業の強化
- 「特別な食」から「日常の食」へシフト

2022年4月期～

新中期経営計画の策定

2022年第2四半期決算説明会に公表予定

サステナビリティへの取り組み

新宿 **中村屋**

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

安全・安心についての考え方

品質方針

開発から販売・サービスまでの全ての活動において
全従業員がお客さま視点に立った品質保証を徹底することで、
信頼され満足いただけるおいしさと安全・安心な商品・サービスをお届けします

安全・安心の追求

原材料、製品の安全性確認

- 残留農薬
- アレルギー物質
- 放射能
等のチェック



製造工場の食品安全マネジメントシステム認証取得

- 神奈川工場 (2019年4月)
カレー類の製造ライン
- 武蔵工場 (2019年11月)
- つくば工場 (2019年12月)
- 埼玉工場 (2021年7月)

FSSC 22000

BUREAU VERITAS
Certification



食品防御

- 従業員とのコミュニケーション
- 不審者侵入防止
- 監視カメラの導入



意図的異物混入の未然防止
「フードディフェンス」
への取り組み実施

*Food (食品) Safety (安全) System (システム) Certification (認証) で
食品安全マネジメントシステム・食品の安全を守るための万国共通の仕組み

環境への考え方～社員個々と会社全体の両輪で推進

2001年「環境行動元年」

環境理念 環境方針 環境行動指針

従業員の啓蒙活動による環境意識の向上

CO₂、廃棄物削減のための諸施策の実施

食品リサイクル法・容器包装リサイクル法・省エネ法などの関連法令の順守等



省エネルギー活動

- ・ 太陽光パネルの設置
- ・ 空調の省エネ
- ・ ボイラーの省エネ
- ・ 照明の省エネ
- ・ 冷凍、冷蔵設備の省エネ

省資源活動

- ・ 食品廃棄物の3Rの実施
- ・ 容器包装の削減
- ・ 紙の3R
- ・ レストランでのリデュース

2022年3月期 決算概要

新宿 **中村屋**

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

2022年3月期 決算概要

- 巣ごもり消費に対応した商品の拡販に注力して売上高は5期ぶりに増収に転じる
- 事業改革の進展により、営業損失は急速に縮小、経常利益は黒字化を達成

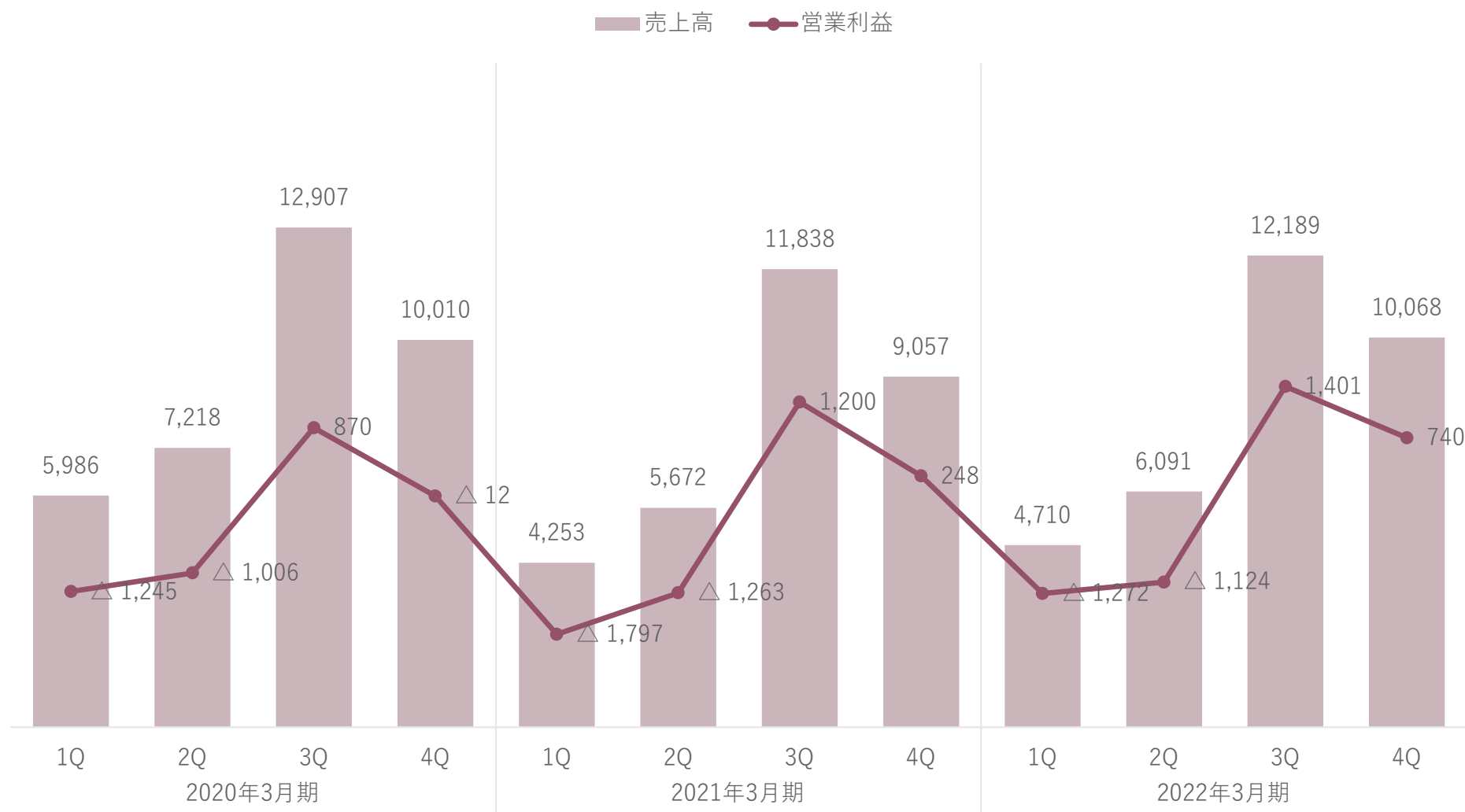
(単位：百万円)	2021年3月期	構成比 (%)	2022年3月期	構成比 (%)	前年比 (%)	金額差異	期初計画
売上高	30,819	100.0	33,058	100.0	+ 7.3	+ 2,239	34,900
売上総利益	10,399	33.7	11,898	36.0	+ 14.4	+ 1,499	—
販売費及び一般管理費	12,011	39.0	12,153	36.8	1.2	+142	—
営業利益	△1,612	—	△255	—	—	+ 1,357	20
経常利益	△1,378	—	63	0.2	—	+ 1,441	160
当期純利益	△273	—	232	0.7	—	+ 505	230

四半期決算の推移

■ 上期は営業利益は赤字

■ 下期偏重、秋から冬にかけて中華まんの需要とともに全体の収益を押し上げる

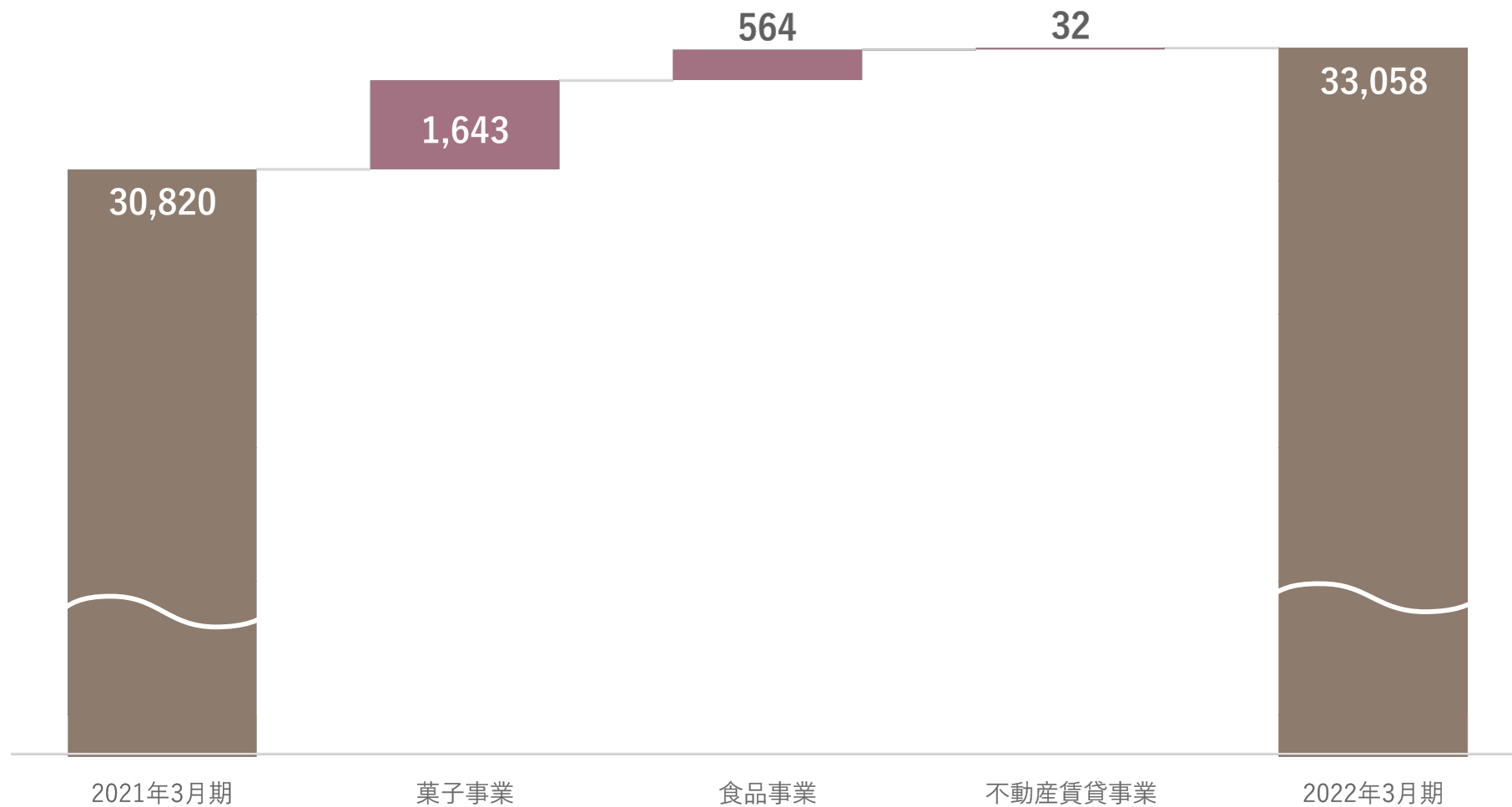
(単位：百万円)



売上高増減要因分析（前年比）

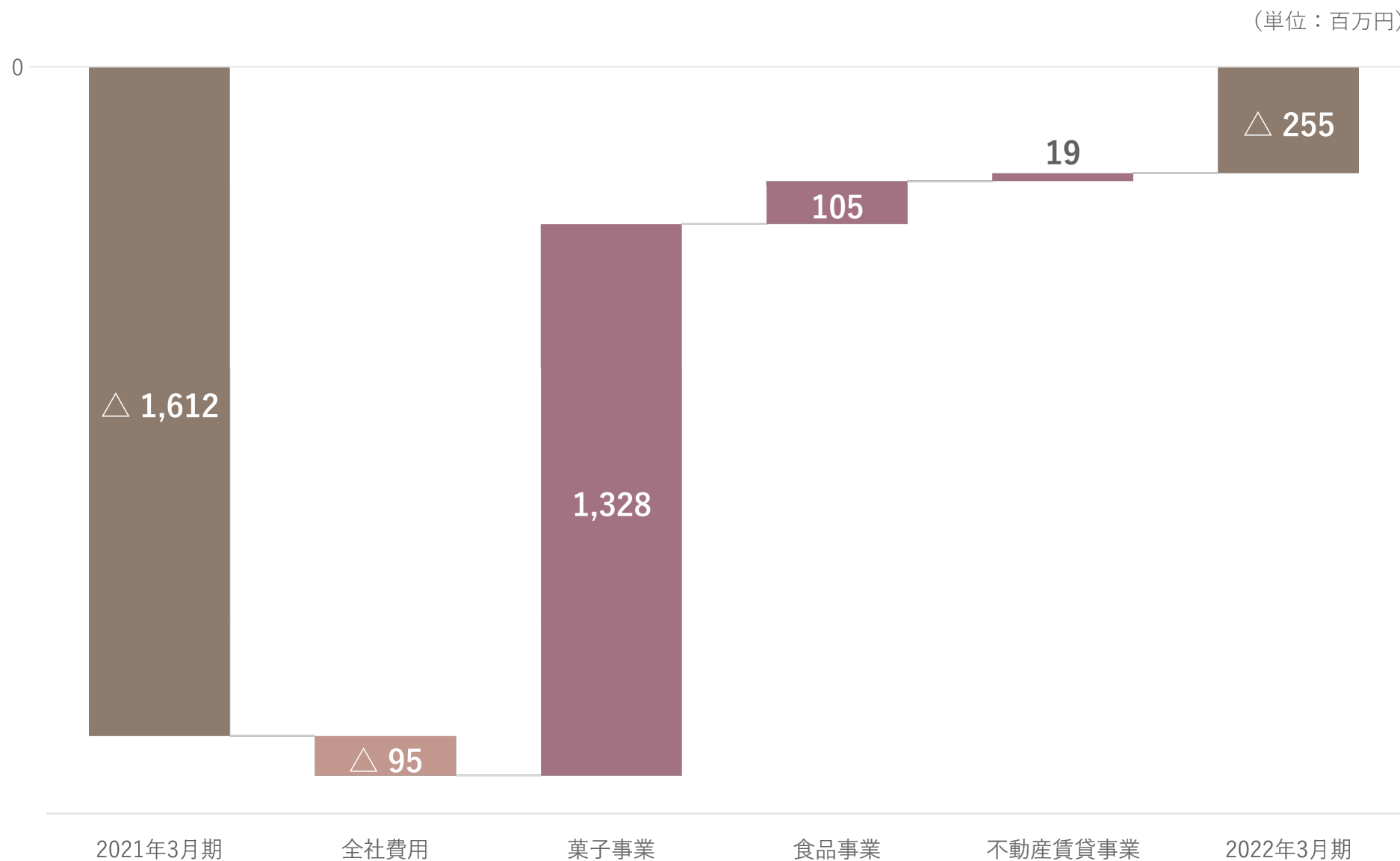
❖ 菓子事業の中華まんの売上高が牽引

（単位：百万円）



営業利益増減要因分析（前年比）

■ 売上高増加と損益分岐点売上高の引き下げにより売上総利益が改善し、赤字幅は大きく縮小



事業別の売上高・セグメント利益

- 個包装中華まんの販売が伸張しで売上高、セグメント利益を牽引
- 商品ミックスの改善、レストラン事業の店舗集約による採算改善で、食品事業も増収増益を達成

(単位：百万円)		2021年3月期	2022年3月期	前年比
菓 子	売上高	22,556	24,199	+1,643
	セグメント利益 (利益率%)	106 (0.4)	1,434 (5.9)	+1,328
食 品	売上高	7,792	8,356	+564
	セグメント利益 (利益率%)	254 (3.2)	359 (4.2)	+105
不動産賃貸	売上高	470	502	+32
	セグメント利益 (利益率%)	123 (26)	142 (28.2)	+19

減価償却による固定資産減少、退職給付信託の設定等による固定負債減少

■ 資産の部

(単位：百万円)	2022年3月末	前期末増減
流動資産	8,413	+492
現金預金	1,187	+41
売掛金	4,096	+410
その他流動資産	3,130	+492
固定資産	33,729	△705
有形固定資産	27,575	△904
投資その他の資産	5,942	+201
資産合計	42,142	△214

■ 負債・純資産の部

(単位：百万円)	2022年3月末	前期末増減
流動負債	9,650	+494
短期借入金	5,900	+200
未払金	1,097	△21
その他流動負債	2,653	+315
固定負債	6,407	△775
純資産	26,084	+67
株主資本	24,577	△66
負債純資産合計	42,142	△214

キャッシュ・フローの状況

■ 営業キャッシュフローはプラスに転換

■ フリーキャッシュフローは投資の積極化により減少

(単位：百万円)	2021年3月期	2022年3月期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	1,811	1,141	△670	<ul style="list-style-type: none"> リース債務返済によるもの 配当金の支払いによるもの
営業活動によるキャッシュフロー	△172	503	+675	<ul style="list-style-type: none"> 減価償却費によるもの
投資活動によるキャッシュフロー	596	△ 250	△846	<ul style="list-style-type: none"> 有形固定資産取得によるもの
フリーキャッシュフロー	424	253	△171	
財務活動によるキャッシュフロー	△1,093	△ 212	△881	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金返済によるもの
現金及び現金同等物の期末残高	1,141	1,182	+41	

2023年3月期通期見通し

新宿 **中村屋**

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

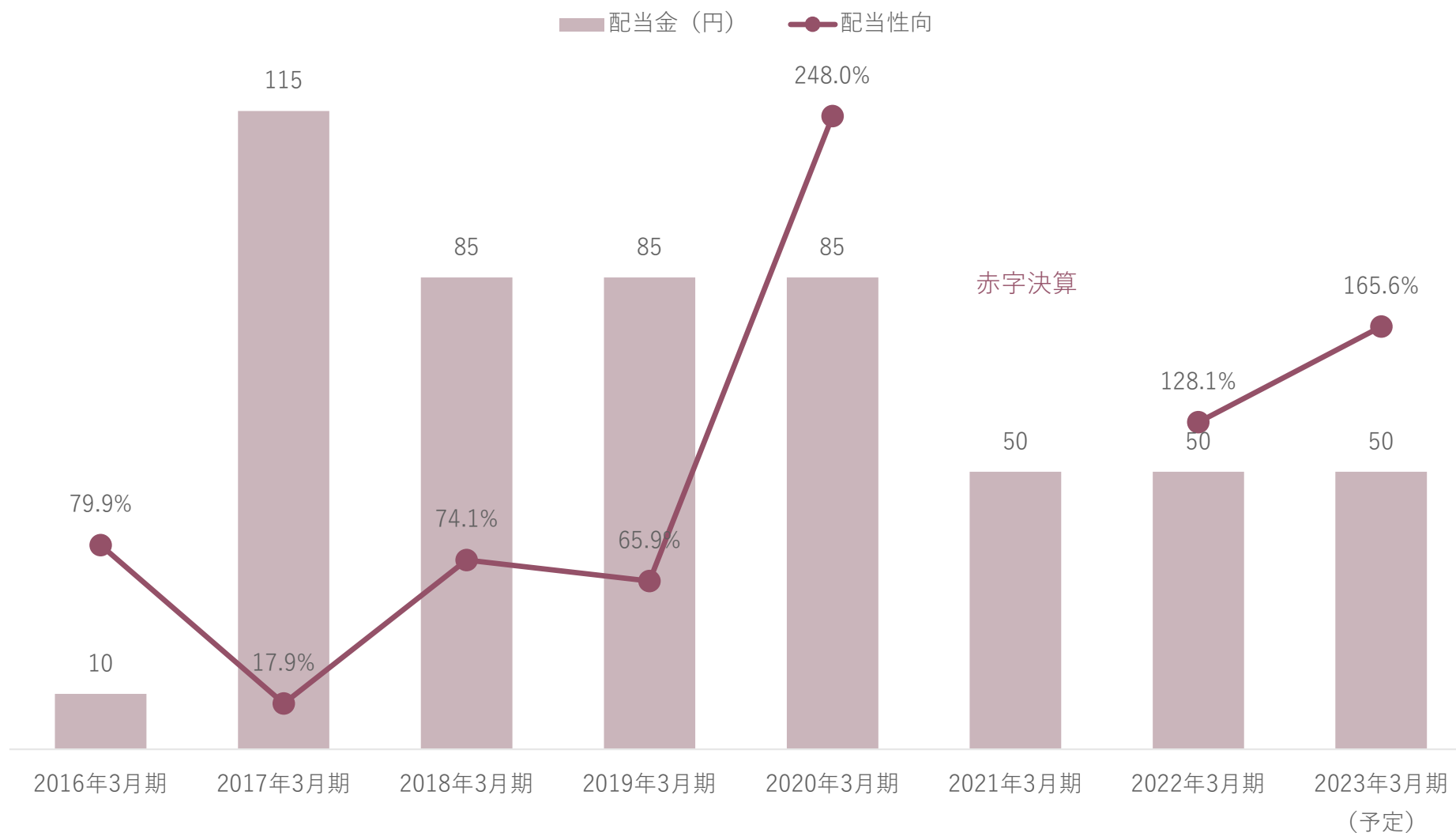
	事業環境 リスク要因	戦略
菓子	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料費、人件費、物流費等の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普段使いの菓子拡大 ■ 新商品の開発・育成
食品	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのギフト、土産、外食の減少 ・強力な先行メーカーの存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新商品開発・育成 ■ PB商品供給
不動産賃貸	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸借契約の解約、賃料の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安定収益の確保

2023年3月期 決算見通し

- ┃ コンビニ向け商品拡販、一部商品値上げにより増収増益を見込む
- ┃ 当期純利益は前期あった政策保有株売却がないため減益

(単位：百万円)		2022年3月期	構成比 (%)	2023年3月期	構成比 (%)	前年比 (%)	金額差異
売上高	33,058	100.0	34,000	100.0	+ 2.8	+ 942	
営業利益	△255	—	100	0.3	—	+355	
経常利益	63	0.2	220	0.6	+249.2	+ 157	
当期純利益	233	0.7	180	0.5	△22.7	△53	

株主に対する安定的な利益還元は経営の最重要政策



┆ 経営体制の一層の強化と企業価値の更なる向上を目指す

新社長略歴



氏 名 島田 裕之（しまだ ひろゆき）

生年月日 1970年4月1日（52歳）

出身地 神奈川県

略 歴
1993年3月 麻布大学 獣医学部卒
1993年4月 当社入社
2014年4月 市販食品部長
2017年4月 執行役員 食品事業部統括部長
2019年4月 執行役員 菓子・食品事業部門統括部長
2021年4月 執行役員 菓子・食品営業部門統括部長

異 動 日 2022年6月29日（予定）

IRお問い合わせ先

新宿 **中村屋**

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

広報・CSR部

TEL

03-5325-2733

E-mail

kouhoushitu@nakamuraya.co.jp

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。